

1

解答解説のページへ

次の問いに答えよ。

(1) $x > 0$ のとき, 不等式 $\frac{2}{3}\left(x + \frac{1}{x^2}\right) \geq 2^{\frac{1}{3}}$ を示せ。また, 等号が成り立つのはどのようなときか。

(2) 数列 $\{a_n\}$ を, $a_1 = 2$, $a_{n+1} = \frac{2}{3}\left(a_n + \frac{1}{a_n^2}\right)$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) によって定める。

(i) $n \geq 1$ のとき, $a_n > a_{n+1} > 2^{\frac{1}{3}}$ を示せ。

(ii) $n \geq 2$ のとき, $a_{n+1} - \frac{2}{a_n^2} < \frac{2}{3}\left(a_n - \frac{2}{a_{n-1}^2}\right)$ を示せ。

(iii) $n \geq 1$ のとき, $0 < a_{n+1} - \frac{2}{a_n^2} \leq \left(\frac{2}{3}\right)^{n-1}$ を示せ。

2

解答解説のページへ

実数 t と $0 \leq \theta < 2\pi$ に対して、2 次関数 $f(x)$, $g(x)$ を

$$f(x) = x^2 + \frac{1}{2}x + \frac{1}{4}t^2$$

$$g(x) = x^2 + \left(t - \frac{1}{2}\right)x - \frac{1}{2}\sin^2\theta \cos^2\theta (\sin^4\theta + \cos^4\theta) + \frac{1}{16}$$

とする。このとき次の問いに答えよ。

- (1) $\frac{1}{2}$, $2\sin^2\theta \cos^2\theta$, $\sin^4\theta + \cos^4\theta$ の大きさを比べよ。また、この 3 つの値が等しくなる θ をすべて求めよ。
- (2) θ は(1)で求めた値とは異なる定数とする。
- (i) 2 次方程式 $g(x) = 0$ の判別式を $D(t)$ とするとき、2 次方程式 $D(t) = 0$ の解 α , β ($\alpha < \beta$) を求め、 $\int_{\alpha}^{\beta} D(t) dt = -\frac{\cos^6 2\theta}{6}$ となることを示せ。
- (ii) 2 つの 2 次方程式 $f(x) = 0$, $g(x) = 0$ の一方が異なる 2 つの実数解をもち、他方が虚数解をもつための t の範囲を求めよ。

3

解答解説のページへ

xy 平面において、点 $A(a, 0)$ を中心とする半径 r の円を C とする。ただし、 $0 < r \leq a$ とする。円 C の周上に、 y 座標が正である点 P と、点 $E(a+r, 0)$ をとる。さらに、点 P における円 C の接線と y 軸との交点を Q 、2 点 E, P を通る直線と y 軸との交点を R 、 $\angle AEP$ を θ とする。このとき、3 点 P, Q, R を頂点とする $\triangle PQR$ について、次の問いに答えよ。

- (1) $\triangle PQR$ は辺 PR を底辺とする二等辺三角形であることを示せ。次に、これが正三角形となる場合の、 θ の値を求めよ。
- (2) $\triangle PQR$ が正三角形となり、さらに頂点の 1 つが原点と一致する場合の、 a と r の関係式を求めよ。
- (3) $\triangle PQR$ が正三角形となり、さらにその外接円の半径が円 C の半径 r と等しくなる場合の、 a と r の関係式を求めよ。

1

問題のページへ

(1) $x > 0$ から, 相加平均と相乗平均の関係を用いて,

$$\frac{2}{3}\left(x + \frac{1}{x^2}\right) = \frac{2}{3}\left(\frac{1}{2}x + \frac{1}{2}x + \frac{1}{x^2}\right) \geq 2 \times \sqrt[3]{\frac{1}{2}x \cdot \frac{1}{2}x \cdot \frac{1}{x^2}} = 2\sqrt[3]{2^{-2}} = 2^{\frac{1}{3}}$$

等号は $\frac{1}{2}x = \frac{1}{x^2}$, すなわち $x = \sqrt[3]{2}$ のときに成立する。(2) (i) まず, $a_n > 2^{\frac{1}{3}}$ を数学的帰納法で証明する。(a) $n=1$ のとき $a_1 = 2$ より成立する。(b) $n=k$ のとき $a_k > 2^{\frac{1}{3}}$ の成立を仮定すると, (1) より,

$$a_{k+1} = \frac{2}{3}\left(a_k + \frac{1}{a_k^2}\right) \geq 2^{\frac{1}{3}}$$

等号成立は $a_k = \sqrt[3]{2}$ のときなので仮定に反し, よって $a_{k+1} > 2^{\frac{1}{3}}$ となる。(a)(b) より, $a_n > 2^{\frac{1}{3}}$ である。また, $a_n - a_{n+1} = a_n - \frac{2}{3}\left(a_n + \frac{1}{a_n^2}\right) = \frac{1}{3} \cdot \frac{a_n^3 - 2}{a_n^2}$ となり, $a_n > 2^{\frac{1}{3}}$ から,

$$a_n - a_{n+1} > 0, \quad a_n > a_{n+1}$$

以上より, $a_n > a_{n+1} > 2^{\frac{1}{3}}$ が成り立つ。

$$\begin{aligned} \text{(ii)} \quad \frac{2}{3}\left(a_n - \frac{2}{a_{n-1}^2}\right) - \left(a_{n+1} - \frac{2}{a_n^2}\right) &= \frac{2}{3}\left(a_n - \frac{2}{a_{n-1}^2}\right) - \frac{2}{3}\left(a_n + \frac{1}{a_n^2}\right) + \frac{2}{a_n^2} \\ &= -\frac{4}{3} \cdot \frac{1}{a_{n-1}^2} + \frac{4}{3} \cdot \frac{1}{a_n^2} = \frac{4}{3} \cdot \frac{a_{n-1}^2 - a_n^2}{a_{n-1}^2 a_n^2} \end{aligned}$$

 $n \geq 2$ のとき, (i) より $a_{n-1} > a_n > 2^{\frac{1}{3}}$ から, $\frac{4}{3} \cdot \frac{a_{n-1}^2 - a_n^2}{a_{n-1}^2 a_n^2} > 0$ となり,

$$a_{n+1} - \frac{2}{a_n^2} < \frac{2}{3}\left(a_n - \frac{2}{a_{n-1}^2}\right)$$

(iii) (i) より, $a_n > a_{n+1} > 2^{\frac{1}{3}}$ なので, $a_{n+1} - \frac{2}{a_n^2} = \frac{a_{n+1}a_n^2 - 2}{a_n^2} > 0$ $n \geq 1$ のとき, (ii) より, $a_{n+1} - \frac{2}{a_n^2} \leq \left(a_2 - \frac{2}{a_1^2}\right) \left(\frac{2}{3}\right)^{n-1}$ (等号は $n=1$ のとき)さて, $a_2 - \frac{2}{a_1^2} = \frac{2}{3}\left(2 + \frac{1}{4}\right) - \frac{2}{4} = 1$ となるので, $a_{n+1} - \frac{2}{a_n^2} \leq \left(\frac{2}{3}\right)^{n-1}$ から,

$$0 < a_{n+1} - \frac{2}{a_n^2} \leq \left(\frac{2}{3}\right)^{n-1}$$

[解説]

量的にかなりのもので, この1題の中に5つの証明題が詰められています。

2

問題のページへ

(1) まず, $\frac{1}{2} - 2\sin^2\theta \cos^2\theta = \frac{1}{2}(1 - \sin^2 2\theta) \geq 0$ であり,

$$\begin{aligned} \sin^4\theta + \cos^4\theta - \frac{1}{2} &= (\sin^2\theta + \cos^2\theta)^2 - 2\sin^2\theta \cos^2\theta - \frac{1}{2} \\ &= \frac{1}{2} - 2\sin^2\theta \cos^2\theta = \frac{1}{2}(1 - \sin^2 2\theta) \geq 0 \end{aligned}$$

よって, $\sin^4\theta + \cos^4\theta \geq \frac{1}{2} \geq 2\sin^2\theta \cos^2\theta$

等号は $\sin^2 2\theta = 1$, すなわち $\sin 2\theta = \pm 1$ のときであり, $0 \leq \theta < 2\pi$ から,

$$\theta = \frac{\pi}{4}, \frac{3}{4}\pi, \frac{5}{4}\pi, \frac{7}{4}\pi$$

(2) (i) $g(x) = x^2 + (t - \frac{1}{2})x - \frac{1}{2}\sin^2\theta \cos^2\theta (\sin^4\theta + \cos^4\theta) + \frac{1}{16}$ に対し, $g(x) = 0$ の

判別式を $D(t)$ は,

$$\begin{aligned} D(t) &= \left(t - \frac{1}{2}\right)^2 + 2\sin^2\theta \cos^2\theta (\sin^4\theta + \cos^4\theta) - \frac{1}{4} \\ &= \left(t - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{2}\sin^2 2\theta \left(1 - \frac{1}{2}\sin^2 2\theta\right) - \frac{1}{4} \\ &= \left(t - \frac{1}{2}\right)^2 - \frac{1}{4}(1 - \sin^2 2\theta)^2 = \left(t - \frac{1}{2}\right)^2 - \left(\frac{1}{2}\cos^2 2\theta\right)^2 \end{aligned}$$

$D(t) = 0$ の解が, $t = \alpha, \beta$ ($\alpha < \beta$) より,

$$\alpha = \frac{1}{2}(1 - \cos^2 2\theta), \quad \beta = \frac{1}{2}(1 + \cos^2 2\theta)$$

すると, $\int_{\alpha}^{\beta} D(t) dt = \int_{\alpha}^{\beta} (t - \alpha)(t - \beta) dt = -\frac{(\beta - \alpha)^3}{6} = -\frac{\cos^6 2\theta}{6}$

(ii) $f(x) = x^2 + \frac{1}{2}x + \frac{1}{4}t^2$ に対し, $f(x) = 0$ の判別式を $D_1(t)$ とおくと,

$$D_1(t) = \frac{1}{4} - t^2 = -\left(t + \frac{1}{2}\right)\left(t - \frac{1}{2}\right)$$

さて, 2 次方程式 $f(x) = 0$, $g(x) = 0$ の一方が異なる 2 つの実数解をもち, 他方が虚数解をもつ条件は,

$$D(t) \cdot D_1(t) = -(t - \alpha)(t - \beta)\left(t + \frac{1}{2}\right)\left(t - \frac{1}{2}\right) < 0 \cdots \cdots (*)$$

ここで, θ が $\frac{\pi}{4}, \frac{3}{4}\pi, \frac{5}{4}\pi, \frac{7}{4}\pi$ のいずれとも異なるとき, $0 < \cos^2 2\theta \leq 1$ から,

$$-\frac{1}{2} < \alpha < \frac{1}{2} < \beta$$

よって, (*) の解は, $t < -\frac{1}{2}$, $\alpha < t < \frac{1}{2}$, $\beta < t$ となるので,

$$t < -\frac{1}{2}, \quad \frac{1}{2}(1 - \cos^2 2\theta) < t < \frac{1}{2}, \quad \frac{1}{2}(1 + \cos^2 2\theta) < t$$

[解説]

ボリュームのある問題が続きます。(*)のように 4 次不等式まで出てきます。

3

問題のページへ

(1) まず, $\angle AEP = \theta$ より $\angle QRP = \frac{\pi}{2} - \theta$

また, $\angle APE = \theta$, $\angle APQ = \frac{\pi}{2}$ より,

$$\angle QPR = \pi - \theta - \frac{\pi}{2} = \frac{\pi}{2} - \theta$$

よって, $\angle QRP = \angle QPR$ から, $\triangle PQR$ は辺 PR を底辺とする二等辺三角形である。

さらに, 二等辺三角形 PQR が正三角形になるのは, $\angle QRP = \frac{\pi}{3}$ の場合より,

$$\frac{\pi}{2} - \theta = \frac{\pi}{3}, \quad \theta = \frac{\pi}{6}$$

(2) まず, $\triangle PQR$ の頂点の 1 つが原点であるのは, 点 Q が原点の場合である。

さて, (1) から $\theta = \frac{\pi}{6}$ のとき, $\angle EAP = \frac{2}{3}\pi$ となり, $P(x, y)$ とおくと,

$$x = a + r \cos \frac{2}{3}\pi = a - \frac{1}{2}r, \quad y = r \sin \frac{2}{3}\pi = \frac{\sqrt{3}}{2}r$$

すると, 点 P における円 $C: (x-a)^2 + y^2 = r^2$ の接線の方程式は,

$$\left(a - \frac{1}{2}r - a\right)(x-a) + \frac{\sqrt{3}}{2}ry = r^2, \quad -x + \sqrt{3}y = -a + 2r$$

この接線の y 軸との交点 Q が原点に一致することより $-a + 2r = 0$, すなわち求める関係式は $a = 2r$ である。

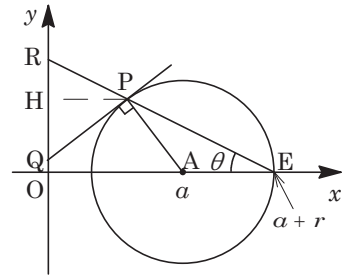
(3) 条件より, 正三角形 PQR の外接円の半径は r なので, 正弦定理を用いると,

$$\frac{PR}{\sin \frac{\pi}{3}} = 2r, \quad PR = 2r \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} = \sqrt{3}r \dots\dots\dots ①$$

さて, (1) から $\theta = \frac{\pi}{6}$ のとき, P から y 軸に下ろした垂線の足を H とおくと,

$$PH = PR \cos \frac{\pi}{6}, \quad a - \frac{1}{2}r = \frac{\sqrt{3}}{2}PR \dots\dots\dots ②$$

①②より, $a - \frac{1}{2}r = \frac{3}{2}r$, すなわち求める関係式は $a = 2r$ である。



[解説]

円と接線, および三角形の位置関係についての標準的な問題です。いろいろな解法が考えられますが, 角に着目したのが上の解です。